重要度 ★★★

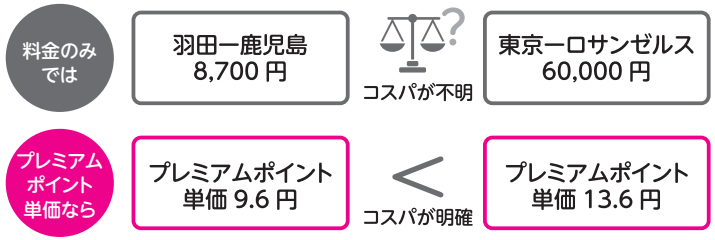
3-4 必要な費用を見積もる

料金と獲得プレミアムポイントで単価を算出

これまでに確認してきたように、上級会員のステイタスをスムーズに獲得するうえでは、航空券の料金をできるだけ安く抑えることも重要です。ただし、利用できる路線にはさまざまなものがあるため、航空券の料金だけを単純に比較しても、あまり意味がありません。

上級会員を目指す人がもっとも重視しなければならないのは、かけた費用に対して、どれだけのプレミアムポイントが得られるかということです。航空券のコストパフォーマンスを知るために、1プレミアムポイントを獲得するために必要な金額を基準とします。**この1プレミアムポイントあたりの金額はプレミアムポイント単価（PP単価）と呼ばれます**。

■ プレミアムポイント単価で航空券のコストパフォーマンスが明確に



例として、2018年12月某日の羽田ー那覇の普通席の片道料金を使って、プレミアムポイント単価の比較を行ってみます。最安値の航空券はANA SUPER VALUEの9,190円で、そしていちばん高額なのはANA FLEXの53,190円でした。それぞれ獲得できるプレミアムポイントは次のとおりです。

■ プレミアムポイント単価によるコストパフォーマンスの比較

●羽田→那覇　¥53,190−(ANA FLEX)※

(984 × 100%) × 2 + 400 = 2,368 プレミアムポイント

区間基本マイレージ　積算率　路線倍率　搭乗ポイント

●羽田→那覇　¥9,190−(ANA SUPER VALUE)※

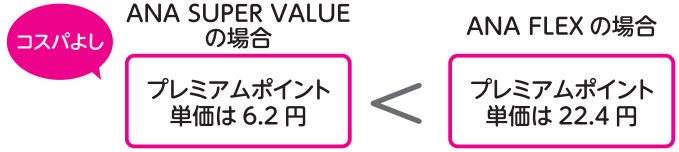
(984 × 75%) × 2 + 0 = 1,476 プレミアムポイント

区間基本マイレージ　積算率　路線倍率　搭乗ポイント

※2018年10月の運賃で計算

ここでプレミアムポイント単価を計算してみます。ANA FLEXの場合、53,190円で2,368プレミアムポイント獲得できるので、プレミアムポイント単価は22.4円となります。対して、ANA SUPER VALUEの場合、9,190円で1,476プレミアムポイント獲得できるので、プレミアムポイント単価は6.2円となります。

■ プレミアムポイント単価によるコストパフォーマンスの比較



単価10円を切るとコスパがよい!?

P.92～93で、プレミアムポイント単価の意味とその計算方法を確認しました。しかし、プレミアムポイント単価が低いほうがよいとわかっても、どれくらいの単価ならばコストパフォーマンスがよいのかわかりません。そのため、**プレミアムポイント単価の相場**を知っておく必要があります。

では、日々プレミアムポイント単価の計算に明け暮れる修行僧は、どの程度のプレミアムポイント単価を目標として設定しているのでしょうか。結論からいえば、多くの修行僧が1つの目安と考えているプレミアムポイント単価は10円です。つまり、**プレミアムポイント単価が10円を切ると、コストパフォーマンスがよい**と考える修行僧が多いということです。そして、**仮にプレミアムポイント単価10円を目標とした場合、プラチナの獲得に必要な50,000プレミアムポイントを達成するには、50万円が必要になる**と計算できます。

■ プレミアムポイント単価の相場

ただし、コストパフォーマンスがよいからといって、それが必ずしも最適な航空券だとは限りません。それというのも、**安い航空券ほど、利用者の少ない時間帯のもの、つまり利用しにくい時間帯のものの場合が少なくない**からです。

では、プレミアムポイント単価の相場と、利用のしやすさの観点から、P.92～93で取り上げた、羽田ー那覇のプレミアムポイント単価を再検討してみましょう。

まず、53,190円の場合のプレミアムポイント単価は22.4円と、10円を超えているため、コストパフォーマンスがよくありません。一方、**9,190円の場合のプレミアムポイント単価は6.2円で、10円を切るという相場基準をクリアしています**。

ただし、この最安値の9,190円で搭乗できる航空便は、羽田発15時35分のフライトなのです。那覇到着が18時25分となるため、日帰りで羽田に戻ることが難しく、**沖縄で宿泊せざるを得なくなり、余計な宿泊費が発生してしまう**ことになります。このように、コストパフォーマンスがよい航空券を購入しても、反対に高く付いてしまう場合があるのです。

宿泊費節約のため無理をすれば、20時台の那覇発のフライトで羽田に日帰りをすることもできますが、羽田到着は22時を過ぎてしまいます。ちなみに、この復路便のANA SUPER VALUEの普通席の料金は9,990円で、プレミアムポイント単価は6.7円です。コストパフォーマンスは依然として高いため、このような強行スケジュールを組む修行僧は珍しくありません。

しかし、**羽田を15時過ぎに出発して、22時過ぎに帰ってくるというスケジュールでは、旅行として楽しむことはできない**でしょう。このようなフライトスケジュールが続けば、修行のモチベーションは下がってしまい、費やす料金に見合ったよろこびは得られそうにありません。料金面のコストパフォーマンスを追求するあまり、過酷なフライトスケジュールを組むことがないよう気を付けましょう。